



Title	編集後記
Author(s)	笠井, 登; 高橋, 米太; 浦山, 勝; 林, 忠一
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1
Issue Date	1994-03
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/35282">http://hdl.handle.net/2115/35282</a>
Type	bulletin (article)
File Information	1_hensyukouki.pdf



[Instructions for use](#)

5) 研究支援機能

① 研究支援業務の従事者の新しい位置付け

研究開発の大型化、高度化及び学際化の進展に伴い、研究者、研究支援業務の従事者等複数の研究従事者が相補完し依存する体制の下に研究開発を実施することが一般的になってきている。それに伴い、研究支援業務には、従来の研究補助、熟練技能提供等に加えて、先端的大型設備の設置・運営、科学技術情報の提供等、その従事者に研究者と遜色ない知的レベルを要求される業務が新たに加わってきており、研究支援機能の充実・強化がますますめられている。

しかしながら、我が国の社会的平等意識の浸透、高学歴化、若年労働人口の減少等の社会的変化は、研究支援業務への優れた人材の確保を困難にしており、これまでの欧米型の伝統的な研究者と研究支援業務の従事者との関係は維持し難い状況となりつつある。

このため、研究支援業務の従事者のうち、特に高度な科学的知見あるいは技術的能力・熟練を要する業務の従事者については、新しい状況変化に対応し、研究者と従事者が職務分担関係にあるとの新しい位置付けを与えることとし、その職責、能力等に応じた地位、処遇等の改善を図るものとする。

また、研究支援業務の従事者に対し、その技術レベルの向上のための機会を付与する。さらに、研究者にもこのような位置付けの変化についての認識の徹底を図る。

② 研究支援機能の独立組織化の推進

一定規模以上の研究機関において、研究支援業務を集中的に処理する方が効果的な場合には、機関内の独立組織あるいは自立した専門組織とすることを推進する。

③ 自動化及び省力化の促進

④ 外部研究支援サービス及び非常勤職員の利用

③、④についての内容は省略します。

【編集後記】

現在、私たちは、多様な学問分野の技術に携わっており、大学の研究教育を支える技術職員として、科学技術の進歩と発展に遅れぬよう、日々技術向上を目指し努力しているところです。

農学部では平成3年に、技術部が設置され、翌年の技術研修に引き続き、平成5年10月25～28日には第2回目の技術部研修を行いました。

このたび、研究・技術報告（第1号）の発行にあたり、研修会で講義していただいた諸先生はじめ、事務部のご理解とご協力にたいし、技術部一同感謝とお礼を申し上げる次第です。また、原稿をお寄せいただいた方々に感謝いたします。科学技術会議第16号答申では、教育研究を主体的に担う教官と専門技術に関わる技術職員の関係の見直しと処遇の改善が提言されています。私たち技術職員も現状に甘んじる事なく、科学技術の発展に見合った高度な知識、技術を身につけるよう努力したいと考えております。

今後とも、教官の方々並びに事務部のご指導とご協力をお願い申し上げます。

編集委員：笠井 登・高橋 米太・浦山 勝・林 忠一